

●たくさんの自動車図書館廃止反対の声を本当にありがとうございます

- ・11月以来、数十通の廃止反対の「市民の声」が名古屋市に届いています。
- ・12月17日(日)の名古屋市予算案についての「パブリックヒアリング」でも、廃止反対の声があがったことが、新聞各紙で報道されています。
- ・マスコミの反響も大きく、中京テレビ（1月25日(月)「リアルタイム」）、中日新聞（1月28日(木)朝刊17面市民版）、メーテレ(1月28日(木)「UP!」)と、次々にこの問題について、真剣に取り上げていただいています。

しかし、残念ながら、今のところ市長も教育委員会も、まったく廃止の方針を変えるそぶりはありません。自動車図書館の存続は、風前の灯です。

●廃止の理由は「利用減」、今後の方針は「図書館(建物館)を充実させるからそちらを使って」、自動車は残さず「売却」

- ・これが教育委員会の説明です。
「図書館が遠くて行けない」人のためにある自動車図書館なのに、「近くの図書館に行け」といわれて納得できる人がいるでしょうか。
年間3千万円の事業費が「無駄」だといいいながら、1台1千万以上する自動車をたった3年半使っただけで売却するというのも、それこそ「無駄」な話です。
- ・現地は「ボランティア運営」でもいいから残して欲しい、という切実な声もいただきましたが、自動車がなくなってしまうと、どんな道も残されません。

●市長を動かすのは、「市民の声」しかありません

- ・このままでは2月の市議会で、自動車図書館の廃止は決定します。
- ・「ハガキも送ったし、メールも送ったし…まだだめなの？」という嘆きの声もお聞きしています。私たちも、多くの方々の切実な思いを黙殺し、直接説明せず逃げ切ろうとする名古屋市の態度に嘆きと怒りを覚えています。
- ・こうしている間にも刻一刻と、最後通牒をつきつけられる時が近づいています。しかしどうしても、ギリギリまで白旗を上げたくはない、という思いで、私たちは運動を続けています。

●最後の手段として、署名運動に取り組みたいと思います。

- ・ぜひ、皆さまのご協力をお願いします。
河村市長が、利用者の切実な思いを受け止めてご英断を下して下さることに、最後まで、一縷の望みをかけ取り組みたいと思っています。